



体験学習を通しての学び

9月17日(木)・18日(金)の2日間、5年生は口吉川小学校と合同で自然学校に行きました。この自然学校では学校から活動の場を自然の中に移し、子どもたちは様々な体験を通して学びを深めていくことを目的にしています。その学びとは、大自然の中で友だちや自然とかわることで養われる道徳性であったり、自然の事象や現象について問題を科学的に解決するための資質や能力であったりします。

今回の自然学校でも野外炊事を行い、カレーづくりに挑戦しました。火起こしを担当する人、食材を切る人、お米を洗う人など、一人一人が役割を果たすことでカレーづくりを完遂することができます。一人でも怠けていると決められた時間でカレーをつくることはできません。しかし、全員が各自の役割を自覚して協力しながら作業を進めていくとカレーをつくり上げることができます。その結果、友だちとの信頼関係を深め、集団生活の意義について深く学ぶことができます。

小学校では平成30年度から「特別の教科 道徳」(以下「道徳科」)を実施しています。学校における道徳教育は、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行い、道徳科はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動(学校行事など)のそれぞれの特質に応じて、児童の発達段階を考慮して適切な指導を行っていきます。その学習活動を通して自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標としています。年間35時間(1年生では34時間)行い、5学年では22の内容項目について道徳科で学習します。内容項目の中には親切・思いやり、友情・信頼、集団生活の充実などがあります。

子どもたちは道徳科の学習で親切・思いやりなどの内容項目について、読み物教材を通して主人公の言動について考え、友だち同士で議論しながら、親切・思いやりの内容について自分の生き方と関連させながら考えを深めて道徳性を養う学習活動を行っていきます。

今回の自然学校で子どもたちは、親切にすることや思いやることの大切さ、友だちを信頼する意義、そして、集団生活を充実していくことで得る喜びなどについて実体験を通して深く学ぶことができていました。

火起こしを担当した子どもは、新聞紙から薪に火を移していかなければなりません。薪の組み方に試行錯誤しながら空気の通り道を作り、自分の役割を果たしていました。また、食材を切る担当になった子どもは、包丁などの安全な使い方について指導を受けて、丁寧に作業をしていました。お米を洗う担当になった子どもは、米粒をこぼさないように慎重に作業をしていました。

しかし、これらの作業が上手くいかないときもあります。子どもたちは自然と作業の仕方を友だちに教えたり助けたりして活動していました。その結果、美味しいカレーができあがりました。子どもたちの中には「今まで食べたカレーの中で一番美味しいカレーができた。」と嬉しそうな顔で私に話してくれる子どももいました。

子どもたちの笑顔を観ていると、道徳科で学んだ親切・思いやりの大切さ、集団生活の意義について深く学び取ることができていると、実感した自然学校になりました。

今後とも体験学習を通してたくさんの学びの場を子どもたちに提供していきたいと考えます。引き続き本校の教育活動にご理解を賜りますようお願い申し上げます。

学校長 善村 龍昭



ホースランドパークでの活動